

防災通信 No.32

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらお寄せください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

災害時の水・給水所

災害時の飲料水の確保について「横浜市水道局の災害対策」を参考にして、私たちが日頃から心がけておきたいことについて紹介します。

【飲料水の備蓄促進】

「横浜市防災計画」の被害想定では、大地震時には水道管の破損などにより市内約25%の約40万世帯で断水が発生するとしています。

また、取水から蛇口へ水を届けるまでには、電力が不可欠です。具体的には市外取水施設での水のくみ上げ、3カ所の浄水場でのろ過処理、水道水を届けるためのポンプの運転などに、多くの電力が必要です。そのため、市内外で停電が発生した場合、断水する世帯がさらに多くなる可能性があります。

各家庭で日頃から飲料水を備蓄しておくことが大切になります。

【家庭における飲料水の備蓄】

水道局では災害などに備え、**1人1日3ℓ、最低3日分で9ℓ以上**の飲料水備蓄をお願いしています。成人1人が1日に体外に排出する水分量は2.5ℓ程度といわれており、これに若干余裕を加え、1日に必要とする飲料水の量の目安を3ℓ程度としています。

災害時には、給水車は病院などを優先して給水します。

市内にはだれでも飲料水を得られる災害用地下給水タンクが134カ所ありますが、夜間や悪天候には給水作業が困難になることが考えられます。また、**給水を受けるためには、自ら容器を用意し、長時間順番を待たなければなりません。** さらに、**重い水(9ℓ=9kg)を自宅まで運ぶために、大変な労力を必要とします。**

これらの理由により、水道局では各家庭で最低3日分を目安として、飲料水の備蓄をお願いしています。

なお、体を清潔に保ったり、洗濯をするための生活用水については、飲料水と別に確保する必要があります。



【災害時給水所】

災害などで断水したときに、誰でも飲料水を得られる場所が、「災害時給水所」です。

災害時給水所には、災害用地下給水タンク、配水池、緊急給水栓などがあります。

発災直後から使用できる災害用地下給水タンクがある場所には、左の「標識」が設置されています。

また、給水準備が整った配水池、緊急給水栓などでは、標識と同じマークがデザインされた「のぼり」が設置されます。

【グリーンテラス本郷台周辺の災害時給水所】

〈災害用地下給水タンク〉

普段は水道管として使われ、新鮮な水道水が流れています。災害時に水圧が下がると、自動的に出入り口が閉まり、タンク内に飲み水を確保します。

この施設は、住民の「共助」により仮設の蛇口を設置し、手動ポンプで水をくみ上げ給水することができます。

※（周辺設置場所） **本郷小学校・桂台中学校**

〈緊急給水栓〉

地震に強い水道管（耐震管）に仮設の蛇口を取り付けて給水する施設です。

発災後おおむね4日目以降に、水道局職員が断水状況を踏まえて順次仮設の蛇口を設置していきます。

※（周辺設置場所） **公田団地・桂台中学校**

〈給水車〉

水道局職員が行う給水車での運搬給水は、主に医療施設などを中心に行います。また、他都市応援職員が給水車でいう運搬給水は、主に地域防災拠点および福祉避難所へ優先的に行います。

※ **グリーンテラス本郷台には給水車は来ないと考えてください！**

【水を運ぶための容器や台車などを用意】

災害時給水所には、水を入れる容器がありません。ポリ容器などの水を入れる容器を必ず用意しましょう。また、水はとても重く、自宅などへ持ち帰るのはとても大変です。リュックや台車などの水を運ぶ道具も合わせて用意しておきましょう。

（参考資料：「横浜市水道局の災害対策」）